

医療用医薬品市場調査(1)

循環器官用剤と感染症治療剤の国内市場を調査

予防接種の増加とがん予防ワクチンで市場拡大が期待されるワクチン製剤  
 2016年の市場は780億円へ(07年比44%増)

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、国内の医療用医薬品市場を疾患領域別に6分割し、2年間で網羅する調査を行う。今回はその第一回目として循環器官用剤と感染症治療剤の調査を行った。その結果を報告書「2008 医療用医薬品データブック No.1」にまとめた。

この報告書では、循環器官用剤を降圧剤、梗塞治療関連製剤、心不全治療剤、不整脈治療剤、狭心症治療剤などに、感染症治療剤を抗生物質、抗ウイルス剤、抗真菌剤、ワクチン製剤に分類し、それぞれの市場を薬剤分類毎に分析している。

各種梗塞治療剤、血栓溶解剤、末梢血管拡張剤

< 調査結果の概要 >

1. 循環器官用剤

| 2007年     | 2008年見込   | 2016年予測   | 07年比   |
|-----------|-----------|-----------|--------|
| 1兆2,300億円 | 1兆2,351億円 | 1兆3,226億円 | 107.5% |

循環器官用剤は降圧剤や梗塞治療関連製剤、心不全治療剤、不整脈治療剤、狭心症治療剤などに分類、構成される。市場は03年以降年率4~7%増と順調に拡大しており、07年も1兆2,300億円と前年に対し5.2%増加した。循環器疾患では降圧剤が処方される高血圧症の患者が突出して多いことから、降圧剤が市場のおよそ70%を占めている。その降圧剤が患者数の増加を背景に拡大し、市場を牽引した。08年は、4月の薬価改定で降圧剤が医療費抑制のターゲットとなり大幅に薬価が引き下げられた薬剤があるため、循環器官用剤市場は前年比0.4%増のほぼ横ばいと見込まれる。

循環器疾患は加齢が重要なファクターであることから高齢化が進むことで患者数は増加すると予想される。また、心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患では古くからあるアスピリンやワーファリンの処方の位置付けが高まっている。心不全治療剤では降圧剤から慢性心不全に適応拡大したアンジオテンシン 受容体拮抗剤の「プロプレス(武田薬品工業)」や適応拡大を開発中の製品もあり市場が活性化すると見られ、降圧剤の市場にも影響すると予測される。しかしアスピリンやワーファリンは低薬価であることから処方量の割に実績が小さいため今後も安定した推移が予想されるが、実績が大きい降圧剤は医療費抑制のターゲットとなりやすく、08年に続き薬価を引き下げられる可能性もあることから、2016年の循環器官用剤市場は1兆3,226億円と予測される。

【主な薬剤分類の動向】

1) 降圧剤

|         |         |                 |
|---------|---------|-----------------|
| 2007年   | 2008年見込 | 2016年予測(07年比)   |
| 8,467億円 | 8,629億円 | 9,150億円(108.1%) |

降圧剤は、アンジオテンシン 受容体拮抗剤、Ca拮抗剤、遮断剤、ACE阻害剤、利尿剤などで構成される。07年の市場は、ACE阻害剤がアンジオテンシン 受容体拮抗剤やジェネリック医薬品への切り替えにより減少したものの、アンジオテンシン 受容体拮抗剤やCa拮抗剤が伸びたことで前年比6.8%増の8,467億円となった。08年は、4月の薬価改定で市場の50%弱を占めるアンジオテンシン 受容体拮抗剤が10%、他薬剤も5%程度の薬価の引き下げが行われたことで、前年比1.9%増の8,62

9億円と見込まれる。

高血圧症は代表的な生活習慣病であることから治療患者数や潜在患者数も多く、高齢化とともに増えるため今後も市場の拡大が期待されるものの、一方では医療費抑制のターゲットになると予想されるため、2016年の降圧剤市場は9,150億円と予測される。

## 2. 感染症治療剤

| 2007年   | 2008年見込 | 2016年予測 | 07年比  |
|---------|---------|---------|-------|
| 6,208億円 | 5,955億円 | 5,920億円 | 95.4% |

感染症治療剤は、抗生物質や抗ウイルス剤、抗真菌剤、ワクチン製剤に分類、構成される。ここ10年ほど市場は薬価改定の年に縮小し、拡大と縮小を繰り返しながらほぼ横ばいで推移している。07年は前年比1.2%増の6,208億円となった。抗生物質は処方適正化や、ジェネリック医薬品へのシフト、薬価の引き下げなどにより縮小が続いている。しかし、06年に続き抗ウイルス剤では「タミフル(中外製薬)」の備蓄が行われたことや、ワクチン製剤では麻疹風疹混合ワクチンが2回接種に変更されたこと、抗真菌剤では白癬治療患者が増加したことで拡大し、市場は僅かにプラス成長となった。08年は、ワクチン製剤が引き続き伸びるものの、「タミフル」の備蓄が終了し抗ウイルス剤が大幅に縮小するため、市場は前年比4.1%減の5,955億円と見込まれる。

09年以降は、抗ウイルス剤が患者数の増加で再びプラス成長に転じ、開発が活発に行われているワクチン製剤も新薬の投入や予防接種の増加で拡大し、抗真菌剤も積極的なDTC(Direct To Consumer)による患者の顕在化で微増推移が予想される。ただ、抗生物質は上位ブランドのジェネリック医薬品へのシフトなどによるマイナス成長が響き、2016年の感染症治療剤市場は5,920億円と予測される。

医薬品メーカーによる、一般消費者に対するマスメディアなどを利用した医療用医薬品の製品名を出さない直接プロモーション活動。

### 【主な薬剤分類の動向】

#### 1) 抗生物質

| 2007年   | 2008年見込 | 2016年予測(07年比)  |
|---------|---------|----------------|
| 3,891億円 | 3,842億円 | 3,300億円(84.8%) |

一般的に感染症患者数は増加しており、特にクラミジア肺炎、マイコプラズマ肺炎、メシチリン耐性黄色ブドウ球菌、薬剤耐性緑膿菌感染症の患者数が増加している。また、メシチリン耐性黄色ブドウ球菌による感染症は院内感染だけでなく市中感染も増加している。しかし、抗生物質の市場は、抗生物質の使用適正化によって処方が控えられていることや、DPC(Diagnosis Procedure Combination)導入の病院の増加でジェネリック医薬品の需要が高まっていることにより縮小している。08年は、合成抗菌剤では一部の上位ブランドや07年10月に発売された「ジェニナック(アステラス製薬)」の効果に対する評価が高く、カルバペネム・ペネム系抗生物質の「メロペン(大日本住友製薬)」や「フィニバックス(塩野義製薬)」が情報提供活動やラインアップの強化で実績の拡大が見込まれるが、市場をプラスに転じるほどの牽引力は無く、縮小は続く見込まれる。

抗生物質使用の適正化によりA群溶血性レンサ球菌咽頭菌やペニシリン耐性肺炎球菌の患者数は減少したが、依然患者数が増加している感染症もあり、新型の結核菌の出現や新たな感染症の発生の可能性もあることから抗生物質の処方の大幅な減少はないと見られる。しかしジェネリック医薬品へのシフトは続き、特に経口セフェム系抗生物質「フロモックス(塩野義製薬)」や合成抗菌剤「クラビット(第一三共)」などの上位ブランドでジェネリック医薬品の発売が近いことが予測され、市場の縮小は今後も続く見込まれる。

医療費の包括・定額支払い方式

#### 2) 抗ウイルス剤

| 2007年 | 2008年見込 | 2016年予測(07年比)   |
|-------|---------|-----------------|
| 997億円 | 760億円   | 1,000億円(100.3%) |

抗ウイルス剤は、抗ヘルペスウイルス剤、抗インフルエンザウイルス剤、抗HIV/AIDS剤、抗RSウイルス剤などで構成される。

07年は06年に続き新型インフルエンザ対策として国や都道府県で「タミフル」の備蓄が行われたことで、抗インフルエンザウイルス剤が伸びた。また、ヘルペスウイルス、HIV、AIDS、RSウイルスなどの患者数も増加し全体的に伸びたため、抗ウイルス剤市場は前年比10.9%増の997億円となった。0

8年も患者数の増加に伴い拡大するが、「タミフル」の備蓄需要の終了で抗インフルエンザウイルス剤が前年の3割程度まで縮小することから、前年比23.8%減の760億円が見込まれる。尚、インフルエンザの流行は1,000万人程度と仮定した。

### 3) ワクチン製剤

|       |         |               |
|-------|---------|---------------|
| 2007年 | 2008年見込 | 2016年予測(07年比) |
| 543億円 | 570億円   | 780億円(143.6%) |

ワクチン製剤市場は、定期接種(予防接種)の需要が中心となることから国の政策の影響を受ける。01年に予防接種法の対象疾患にインフルエンザが追加され、65歳以上の高齢者については一部公費負担で予防接種が促進されたことでインフルエンザワクチン市場が拡大し、ワクチン製剤市場を牽引してきたが、近年は厚生労働省指導のもと需要予測が行われており安定した推移となっている。代わって、06年にはしかの予防接種が2回接種に変更されたことで、出生数は減少しているものの接種回数は増え、麻疹風疹ワクチンが拡大して、ワクチン製剤市場を牽引している。

07年のワクチン製剤市場は、前年比2.5%増の543億円となった。08年も麻疹風疹混合ワクチンの伸びで前年比5.0%増の570億円と見込まれる。

ワクチン製剤の開発は活発に行われており、特にがん予防ワクチンへの注目が高まっている。現在は子宮頸がん予防ワクチンとして「サーバリックス(グラクソ・スミスクライン)」と「ガーシダル(万有製薬)」が申請中である。現状の子宮がん検診の受信率の低さは懸念されるものの、子宮頸がんを予防できることから期待は高い。がん予防ワクチンの研究開発は世界中で行われており、子宮頸がんワクチンのように近々に市場が立ち上がりそうなワクチンはないものの、将来的に期待は大きい。

今後は子宮頸がんワクチンの製品化や、団塊世代が65歳以上を迎える2012年以降にインフルエンザワクチンの接種の増加が見込まれるなど、2016年のワクチン製剤市場は780億円と予測される。

以上

#### <調査対象>

|        |                                                |
|--------|------------------------------------------------|
| 循環器官用剤 | 降圧剤、各種梗塞治療剤・血栓溶解剤・末梢血管拡張剤、心不全治療剤、不整脈治療剤、狭心症治療剤 |
| 感染症治療剤 | 抗生物質、抗ウイルス剤、抗真菌剤、ワクチン製剤                        |

#### <調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献、社内データベースを併用

#### <調査期間>

2008年1月～3月

資料タイトル:「2008 医療用医薬品データブック No.1」

体 裁 : A4判 256頁

価 格 : 160,000円(税込み168,000円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 メディカルグループ

TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811(代) FAX 03-3661-9514 e-mail:koho@fk-m.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>